

F₁ ピンカ タイタン™・シリーズ

Catharanthus roseus

種子粒数の目安: 525 粒/グラム

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよい、新しいピート主体の培地を用いましょう。pH を 5.8 から 6.0 の範囲に、初期 EC 値を 0.75mmhos/cm 以下に合わせる

播種

生産には 288 穴あるいは同程度の容量のトレイを用いる。種子をバーミキュライト等で覆土する。3 から 5 日で発芽します

ステージ 1 - 播種には 3、4 日を要する

地温: 24 から 25°C

光条件: 不要である

水分: ステージ1では水分レベルをやや湿潤(level 4)に維持する

湿度: 子葉が発生する頃までは相対湿度を 95%+で維持する

ステージ 2

地温: 21 から 22°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: 水分レベルを下げ、やや湿潤(level 4)から標準(level 3)に下げて、根の生育を培地中で促す

肥料: レート1(100ppm(N)以下、EC を 0.7mS/cm 以下)の濃度で、リン酸の低い硝酸態の肥料を与える

ステージ 3

地温: 21 から 22°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: かん水の間に培地の表面が明るい茶色に乾くような、やや乾燥した状態(level 2)を維持する。状況を見ながら、level 2 から level 4 の範囲でドライとウェットを繰り返しながら管理を続ける

肥料: 肥料の濃度をレート2(100-175ppm(N)、EC 値 0.7-1.2mS/cm(1:2))に上げる培地は、pH を 5.8、また EC を1.0-1.5mS/cm(2:1))の範囲で維持

ステージ 4

温度: 21 から 22°C

光条件: 温度の調整が可能であれば、53,800 ルクス(5,000 f.c.)まで可能

水分: ステージ3と同様

肥料: ステージ3と同様

PGR(矮化剤): 不要である

鉢上げから出荷までのステージ

培地

水はけがよく、無菌の、新しいピート主体の培地を用いましょう。pH は 5.5 から 6.0 の範囲に、初期 EC 値を 0.75mmhos/cm 以下に合わせる

管理温度

夜間: 18 から 20°C

昼間: 24°C、あるいは以上

(光条件)照度

温度条件が維持されている場合は、光条件はできるだけ高く維持する

かん水

適宜むらなくかん水をします。培地や葉が過湿になると病気が発生しやすい環境となるので注意する。

肥料

移植後 1 週を経てから、リン酸の低い硝酸態の肥料を主体とした、レート4(225-300ppm(N)、EC 値 1.5-2.0mS/cm(1:2))の濃度の肥料を与える。培地の pH を 5.8、また EC を1.5-2.0mS/cm(2:1))の範囲で維持する。上記の pH と EC を維持できるのであれば、レート3(175-225ppm(N)、EC 値 1.2-1.5mS/cm(1:2))の濃度を多頻度で与える方法も可能である。

矮化剤(PGR)

このシリーズでは原則不要である。丈の調整についてはマイナス DIF(昼温と夜温の差による管理)を用いることが望ましい。ピンカでは、ボンザイやスマジックなどの矮化剤による葉害の報告例がある。B ナインや A レストにおいてはそのような報告例はないので、丈の調整に使用可能である

平均的な生産期間

播種から移植まで(288 穴トレイ): 5 週

移植から開花/出荷まで(9cm、10.5cm): 3 から 5 週

播種から出荷までの平均生産期間: 8 から 10 週

上記の期間は、温度や照度など栽培条件の違いによって変わることがあります。

病例等

病気: リゾクトニア、フィットイトラ、ピシウム、セレビオブシス、ボトリティス、アルテルナリア、ウロクライジウム、TSWV などによる疾病や障害を防除するため殺菌・殺虫剤散布を徹底します

害虫: ハダニ、スリップス、アブラムシ、カイガラムシが付きやすいので殺虫剤散布を徹底する

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則った正しい使用方法とるようにしましょう